

平成16年(2004年)新潟県中越地震に伴う地震断層の緊急調査

＜丸山 正¹⁾・伏島祐一郎¹⁾・松浦 旅人¹⁾・粟田 泰夫¹⁾・吉岡 敏和¹⁾
水野 清秀¹⁾・井村 隆介²⁾・石山 達也¹⁾・小松原 琢³⁾＞

1) 産総研 活断層研究センター 2) 鹿児島大学理学部 3) 産総研 地質情報研究部門



2004年10月23日に発生した新潟県中越地震(M6.8)に伴い、余震域東部にあたる旧広神村小平尾地区において、水田や畑を歪めさせる地震断層が確認されたほか、周辺地域でも既存の活断層およびその延長部に沿って圧縮変形が断続的に認められた。調査結果の詳細は活断層研究センターホームページ2004年10月23日新潟県中越地震速報サイトで公開している(<http://unit.aist.go.jp/actfault/niigata/index.html>)。

1. 小平尾地区で確認された地震断層を西側の丘陵から望む。



2. 小平尾地区において認められた西側上りの逆断層状変形。この延長部でもアスファルト舗装路の波状変形やクラックが断続的に観察された。



3. 小平尾地区において観察される短縮による消雪パイプの跳ね上がり(2.の約60m南に位置する)。写真では見えないが側溝にも圧縮破壊が認められる(矢印で示す)。



4. 小平尾地区でみられる水田の干上がり方の違いから長さ350m以上にわたって連続的に認められる西側上りの地震断層(矢印)。3.の約400m南に位置する。



5. 六日町盆地西縁断層沿いの青島地区において認められる畑に生じた西側上りの段差(矢印)。この延長部でも道路の波状変形や圧縮変形が断続的に観察される。